

町立病院内科待合室前での問診のあり方について

後藤 勲 議員

町長 個人情報を守ることに関心を配ってほしい

一般質問

町政を問う



問 内科受付前での問診は、待つている方も聞かされてる方もあまり良い感じではなく、特に高齢者も多く大きな声で聞き取りをしているのをよく見かけますが、個人情報や秘密保護の関係から、隣にある、前に婦人科の針治療に使用していた部屋を利用して、個人個人に応じ聞き取りをしてはどうか。

答 患者の個人情報やプライバシーを守る観点からは重要であり、

意を配すべき事項と認識をしている。現状、希望された患者と看護師がその内容により別な場所での問診が必要と判断した患者さんについては、産婦人科や小児科の空き室を使用して聞き取りを行っている。また、身体状況により外来受付まで移動が困難な方については、看護師が席に出向き問診を行っている。すべての患者を別室で聞き取りすることは、看護師の配置に限りがあることと、移動することににより待ち時間が長くなり結果的に負担が増すことも考えられる。しかしながら、患者の意思を尊重するとともに、状況を的確に判断し患者の個人情報やプライバシーを守ることに意を配してほしい。

その他の一般質問

後藤 勲 議員

婦人科外来に行く通路の改善は出来ないか

問 産婦人科は週に二回ほど診察があり、延べ人数は60〜70人ほどが受診している。

産婦人科外来は、女性に限っていく所ではあるが、受診するため内科待合室にいる人たちの前を通って産婦人科の方へ行かなければならない。それが非常に恥ずかしいという意見が多いので、何か改善することができないか。

例えば、内科待合室の前に、顔が見えない程度のついたてを立ててはどうか。

答 他の診療科目の場所と入れかえることができないかとの点については、内科の待合室を通らないラインはなく、産婦人科外来がある日は産婦人科待合室に入らないようついたてを立てている。内科の待合室は奥まったところにあるのでついたての効果はあると考える。

内科待合室前のついたては好ましくないと判断し、今のところ考えていない。



町立病院の産婦人科までの通路

問 障がいの早期発見と適切な対応について、標茶町はどのような取り組みを行ってきたか。

身体障害者手帳の交付とならず、軽度・中等度難聴児で助成が行われていない子どもたちの実態調査を行い、的確に現状を把握すべきと考えられているか。

迪 議員 深見

軽度・中等度難聴児に対する補聴器購入助成の実施を町長 実施については前向きに検討する

北海道は、平成27年度から18歳未満で身体障害者手帳が交付されていない軽度・中等度難聴児に対する補聴器助成制度を実施している。町でもこの助成制度を活用し、聴覚に障がいのある子どもたちが健全な発育をするよう早期に支援を行うことがどうか。

すでに実施している市町村では、補聴器購入のための助成だけでなく、修理費用についても助成の対象としている。本町でも実施に踏み切った場合修理費用も対象とすべきではないか。

北海道は、補聴器助

成を18歳未満としているが、これを標茶町として条件に応じて18歳以上にまで拡大するつもりはないか。

答 本町では、保健福祉課、子ども発達支援センター、子育て支援センターのみならず関係する専門機関との連携により対応している。

軽度・中等度難聴児で助成が行われていない子どもたちの実態調査については、実態の把握に努めている。昨年度より北海道が実施している上記の助成制度を活用した早期の支援については、どのような方が支援を必要としている児童にとつてよりよい支援制度になるかを前向きに検討していく。



補聴器

その他の「一般質問」

深見 迪 議員

「全国学力・学習状況調査」には健全な発達を阻害する要因はないか

問 「全国学力・学習状況調査」対策として、教育局からの豆テスト、CRTの使用、過去問題による練習など学校現場で実施している事実はないか。

これらは、各学校の教育課程の中で独自に準備されたものでないという点では、プラスアルファという印象があるかもしれないが、各学校でそうしないように位置付けて行われている。長期休業中の学習は、全校で実施している。保護者からおおむね理解を得ていると考えている。

4月19日馳浩文部科学大臣は記者会見で「子どもたちに対し気を付ける配慮」について述べたが、これをどのようにとらえるか。

道教委は、平成28年度にすべての教科で全国平均以上となるよう学力向上の取り組みを推進していく方針を掲げているが問題ではないか。

答 豆テスト、CRT、道チャレン

ジテスト、過去問題などは活用しているが、学力テストの点数アップを目的にだけしているのではない。ただ、現場での大変さは確かにある。

馳文科大臣の学力テストについての注意については授業改善や児童とのコミュニケーションの時間は割いている。

道教委は全国の順位を上げることが確かに言っているが本町では取捨選択してやっている。



農畜産物加工処理施設を農協と連携し拡充を

渡邊 定之 議員

町長 JA の出した結論に応じ考えていく

標茶町で生産した牛肉や牛乳を活用したこれらの活動は、今後の標茶のまちづくりや基幹産業である酪農を支える大きな取り組みと考える。本町がJAしべちゃと連携し、施設の改修や新設も視野に入れ、幅広く町民町外の人々が参加できるように農畜産物加工処理施設の拡充を考えてはどうか。

問 JAしべちゃでは農畜産物処理加工施設で加工した、牛肉の大豆、水煮、ミートソースなど「JAしべちゃ特産品」を販売し好評を得ている。この取り組みについての町長の評価、所見を伺う。

答 加工品は、手軽な美用品、贈答品としてまた、町のPRとしても評価している。施設の役割については、販売向け以外の一般利用は100%の稼働率となっていて、生産者と消費者の結びつきや意識向上、地域会、女性部等各种団体等が畜産加工を体験する場として貴重な施設である。施設については現在JAが、新築が改築の検討方針を示している。経済団体の出した結論に応じ必要な支援策を講ずべきと考えていく。



農畜産物処理加工施設ソーセージ作り

その他の一般質問

渡邊 定之 議員

子育てサポートセンターの活動を活発にし、働く親の更なる応援を

問 本町に発足した「子育てサポートセンターまーぶる」に登録されている人数や活動実績について伺う。

また、「子育てサポートセンターまーぶる」の存在を知らない町民がいるように思うが、周知方法はどのように行ってきたのか伺う。

親たちが働く各職場に向けて、「子育てサポートセンターまーぶる」の活用を促すリーフレットなどの発行、職場の責任者に対するレクチャーなど、制度の有効な活用が行われるようにすべきと考えるがどうか。



答 安心して子供を育てることが出来る環境づくりを推進することとは重要である。提供会員8名、依頼会員5名で昨年10月にスタートし、過去2回利用された。周知については、様々な場所や場面で行ってきた。今後の更なる周知については、制度の有効活用を含め、子育てサポート事業を地域に根ざした活用となるよう社会福祉協議会と連携を取りながら、より効果的なものとなるよう進めていきたい。

問

障害者差別解消法が本年4月1日から施行されました。この法は障がいのある人、身体、知的、精神等あらゆる障がい者に対する不当な差別的取扱いを禁止し、市町村等の役所など行政機関に法的義務を、民間企業等に努力義務を課し、障がい者が社会生活に不都合を感じないように合理的配慮の提供を求めています。

鈴木 裕美 議員

障害者差別解消法の理解を求めるための手立てはないか

町長 法の趣旨にのっとり対応する

障がいのある人が社会の中にあるバリアによって生活がしづらい場合があったらそのバリアを取り除くための何らかの対応を必要としていると意志が伝えられたとき、道や市町村等役所で働く人が適切に対応するため具体例を盛り込んだ「対応要領」を作成することに努めることとされたが本町でも作るべきと考えるがいかがか。更に障がいのある人が困ったことがあった場合、地域の身近な相談を受け付ける窓口で相談がで

きるような体制づくりができることとされているが、障害者差別解消支援地域協議会の設置等すべきと考え

る。協議会の有・無は地域の人権意識を示すバロメーターと言われている。是非、協議会の設置をすべきと考えるがいかがか。



北海道のパンフレットより

答

法律の制度を受けて法の趣旨にのっとり標茶町役場の対応要領は作成していく。

障がい者差別解消支援普及啓発パンフレット等は、窓口や各公民館の情報コーナーに配置しているが、更に広報しべちゃやホームページ等に活用し法の趣旨の啓発に努めていく。

障がい者の相談業務の窓口の一つとして地域活動支援センター内に相談窓口が開設している。既存の会議体に機能を付加する事は社会福祉施策検討委員会を活用して対応していく。

問

本町内で建設が予定されている食肉加工センターは、酪農家の経営には必要不可欠なものである。本町は、平成29年度の事業採択に

向け、完成までの予定表も策定しているところであり、課題を速やかに解決し一日も早く施設が完成することを求め、2点について伺う。

櫻井 一隆 議員

食肉加工センター建設の見通しは

町長 課題解決に向けて努力をする

一、建設予定の下流の漁業協同組合から、排水処理に対して認め難いとの意見書が届いたと聞いているが、どのような主張なのか伺う。
二、現在考えている排水処理が認められないと言った場合、今後の整備検討委員会と本町の対応を聞きたい。

答

下流域関係者との話し合いに必要は、慎重に進める必要があるとの考えで進めているが、同意に向けた話し合いが難航し、建設予定地の決定に

至っていない。

1点目については、今年1月から実施した地質調査について報告をした。去る5月16日付で根釧と畜場、食肉加工施設整備検討委員長宛に意見書の提出があり、内容は、場所の再検討を含め、抜本的な計画の見直しを要望してきた。

2点目については、根釧と畜場、食肉加工施設整備検討委員会として今後の対応方針や推進方を決定していく。建設予定地の確定を含め、課題解決に向け作業を急ぐことが重要と考えている。

食肉加工センターは根釧の酪農畜産業にとって絶対に必要であるという考えに変わりはない。

標茶町議会

熊本地震にお見舞い

4月14日以降に熊本県と大分県で相次いで発生した地震の被害により亡くなられた方に謹んでお悔やみを申し上げ、また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

標茶町議会は、5月の第一回臨時会で一日も早い復興を祈って議員全員による災害義援金を送りました。